

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-3-3 国際化と多文化共生の推進
---------	----------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	文化国際課長 坂本 偉健	電話番号	0852-22-6006
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	外国人住民との共生事業		
目的	(1) 対象	県内外国人住民	
	(2) 意図	県内で生活し易くする	
事業概要	外国人住民との共生を目指す「多文化共生社会」を推進するため、しまね国際センターと連携して通訳や災害時サポーターなどボランティア登録を行い、外国人住民に近いところでの生活支援を行ったり、災害対応に備える。 日本語教室に対する経費助成や、各種ボランティアのスキルアップを図るための研修等を実施する。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	ボランティヤ登録者数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		505.00	510.00	515.00	520.00	
式・定義	国際交流・協力ボランティヤ等の登録者数		実績値	500.00	542.00	571.00	620.00		
			達成率		107.30	112.00	120.40		%
指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位		
								目標値	0.00
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00	0.00		
									達成率

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	2,971	1,650
うち一般財源(千円)	1,971	1,650

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

県民生活に直結する事業であり、継続して多言語による相談業務、日本語教室への運営支援、災害時のボランティヤ養成の取り組みを(公財)しまね国際センターに業務委託することによって、地域の国際化を目指す拠点として継続的なネットワーク化を図ることができ、ボランティヤ登録者の支援・連携が可能となっている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

しまね国際センターの動きかけにより、新たなボランティヤ登録者は増加傾向にあり、多文化共生への理解は少しずつではあるが進みつつある。
日本語教室は、在住外国人にとって日本語の修得のみならず、文化や習慣の理解など日本での生活自体を支援する側面があり、外国人の社会参加活動を促し、地域社会の安定・活性化に役立っている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

近年、相談事例が複雑化・深刻化しており、相談を受けた時点では手遅れになっていたり、介入が遅かったため解決までに時間・労力を要するケースが増えている。

②困っている状況が発生している「原因」

外国人住民の在留期間の長期化、定住化による。

③原因を解消するための「課題」

外国人住民により近い形での相談体制の確立が必要。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

効果的な連携・協力体制を構築するため、特に市町村との役割分担の明確化及び連携を強化しつつ、外国人住民と市町村・関係機関との橋渡し役をする相談支援員の設置を行う。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）